

88%にのぼっている。業種内容を出荷額からみると軽工業（昭和37年58.4%）が、重化学工業（41.6%）より多い。ゆたかな資源、労働力がじゅうぶんに活用されていない。また、地域間、企業間の格差もおおきい。

第三次産業の生産所得構成比は、昭和30年には、全国平均より若干下まわっていたが、国の工業化の進むにつれ、国の比率をかなり上まわるようになってきている。物の生産と流通のバランスをみると物の生産は、全国に比して下まわっているのに対し、県民の消費につながる流通部門の第三次産業は、国を上まわっている。

就業者1人当りの生産所得の増加率をみると、昭和30年と昭和38年度間において、第二次産業は1.13であるのに対し、第一次産業は1.03にとどまり、産業間の格差は広がる傾向にある。

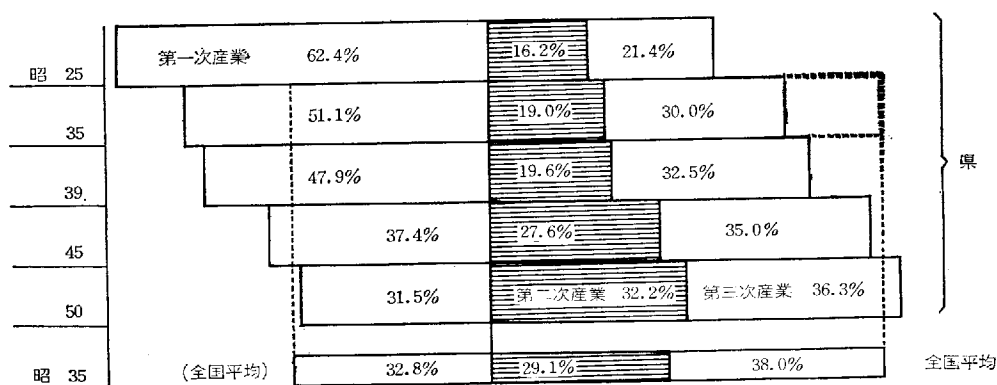
広大な土地、豊かな水資源と電力、未開発の鉱物資源、恵まれた観光資源、豊かな労働力を有して関東経済圏に接し、東北の関門に位置する本県は、高度発展の好条件を保有している。この長所を伸長し、すでにみた本県の後進性を脱却し、県民福祉の向上をはかるため、県は、県勢振興計画を推進することになった。

以下、県勢振興計画によって本県社会の将来を展望し、教育への要請をさぐることにする。

第2節 産業構造の近代化

1 近代化される産業構造

第2図 産業別、就業人口構成の推移と見通し（附、国県比較）



産業別、就業人口の推移と今後の見通しを表示したのが、第2図である。本県の産業構造は、近代化されつつある。とくに、第一次産業の就業人口構成比の減少傾向と第三次産業人口構成比の増加傾向がみられる。産業近代化の中心となる第二次産業の就業人口構成比の増加は、小